

表情の解釈に影響を与える自尊感情の効果

伊藤尚枝(恵泉女学園大学)

キーワード: 特性自尊感情, 状態自尊感情

問題と目的

ソシオメータ理論 (Keary & Downs, 1995) は, 他者との良好な関係を維持するために心的装置が機能していると仮説する。心的装置は, 他者にとっての自分の価値(関係価)を監視し, 拒絶されないよう行動を制御する。また, この理論では, ①特性自尊感情と②状態自尊感情を区別する。①特性自尊感情とは, 個人の常態の自尊感情である。他方, ②状態自尊感情は, 現下の自他関係で感じる感情で, 関係価が低くなる他者情報を受容すると低くなる。心的装置は②の自尊感情が低下すると, 関係回復の行動を制御するという。

遠藤・板東(2006)は, 心的装置に①は不必要かと発問して, その働きを検討した。その結果「受容」の他者情報では, ①の高低に応じて, ②に高低の違いが現れた。①によって「受容」情報の解釈が異なったからだという。しかし「拒絶」情報では, ①に高低があっても, ②は同程度だった。

他者情報の解釈に①が影響すると主張するなら, 同一の他者情報に「受容/拒絶」のどちらの意味を付与するか調べた方がいいだろう。さらに, 心的装置が関係価の低さを監視しているなら, 「拒絶」と解釈した情報が, ②に影響を与えるか検討したほうがよいだろう。本研究では, 表情を表す Figure1 (ア) を使用して再実験を試みる。

方 法

実験参加者 女子大学生 30 名 (18~20 歳)。

手続 遠藤・板東(2006)の手続きを一部踏襲した。①特性自尊感情を, 自尊感情尺度(山本・松井・山成, 1982)で測定した。②短文を黙読してもらった。内容は, 大学の講義を休んだ参加者が, 顔見知り程度の A さんにノートのコピーを依頼する場面であった。③依頼したときの A さんの表情として Figure1 (ア) を呈示した。この表情は, 予備実験で無表情と評定された図である。A さんの表情を, 参加者がどのように感じたかを, 6 件法(1: とても拒絶的~とても受容的:6)で評定してもらった。④依頼場面を想像して, 参加者の状態自尊感情を評定してもらった。状態自尊感情は遠藤・板東(2006)と同じ 10 項目(誇らしい, 心配である, 憂鬱である, うろたえている, 落ち着いている, 恥ずかしい, きまりが悪い, 気持ちが楽である, 満足している, 自分に自信がある)だった。(感じない:1~感じる:5)で評定してもらった。

結果と考察

特定自尊感情

自尊感情尺度の得点の上位 15 名を高条件, 下位 15 名を低条件とした。Table1 に 2 条件の平均値を示すが, 有意差が認められた ($t(28) = 17.68, p < .05$)。

A さんの表情 (Figure 1 ア) に対する評定

2 条件の平均値 (Figure1 イ) に, 有意差が認められた ($t(28) = 2.03, p < .05$)。低条件のほうが, 高条件よりも, A の表情を拒絶的に知覚していることがわかった。この解釈の違いは特定自尊感情の違いに規定されていると推測できる。

状態自尊感情

Table 2 に平均値と標準偏差を示す。点数が低いほど, ネガティブな感情を表すように集計した。2 条件の平均値には, 有意差が認められた ($t(28) = 1.74, p < .05$)。低条件のほうが, 高条件よりも, ネガティブな状態自尊感情を経験していたと推測できる。

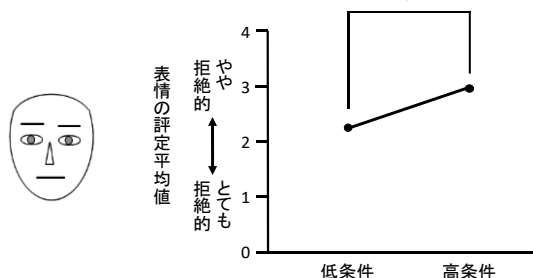
同じ他者情報(表情刺激)に対して, 状態自尊感情の評定に差が現れた。この差は, 特定自尊感情に規定された他者情報の解釈を反映していると推測できる。

Table1 2条件の特性自尊感情の平均と標準偏差

	低条件	高条件
平均	16.53	39.40
標準偏差	4.07	6.28

Table 2 2条件の状態自尊感情の平均値

	低条件	高条件
平均	20.27	24.07
標準偏差	4.77	6.97



(ア) A さんの表情 (イ) 表情評定の平均値

Figure 1 表情の顔刺激と表情評定の平均値